第4回 日本臨床薬理学会 中国・四国地方会

テーマ：種を育てる

参加費 会員・非会員
3,000円（学生無料）

会期 2019年7月6日（土）13:00-17:30
会場 徳島大学蔵本キャンパス大塚講堂
徳島市蔵本町3丁目18-15
会長 楊河　宏章
徳島大学病院臨床試験管理センター

日本臨床薬理学会 中国・四国支部 webサイト http://jscpt-cs.jp

〒770-8503 徳島市蔵本町２丁目５０－１
徳島大学病院臨床試験管理センター
第４回日本臨床薬理学会中国・四国地方会事務局（武智、中馬）
e-mail：first-ec@tokushima-u.ac.jp

第４回日本臨床薬理学会中国・四国地方会
―種を育てる―

2019 年３月吉日

第４回日本臨床薬理学会中国・四国地方会の開催について

みなさまには益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、第４回日本臨床薬理学会中国・四国地方会を 2019 年７月６日（土）に、「種を育てる」をテーマにして、徳島大学蔵本キャンパスの大塚講堂を会場に開催することとなりました。

今回のテーマを基に、特別講演には難治性神経疾患の治療法確立に一貫して取り組まれている梶先生から「ＡＬＳの治療薬医師主導（死亡）治験」」として**研究者の情熱**についてご講演頂くことになりました。

「種を育てる」ためには、研究者の情熱に加えて多くの因子が必要です。この観点から、シンポジウムについては２テーマを設定しています。まず、最初は**研究自身の適正性**を再考する意味で「適正な臨床研究推進のために」を設定しました。研究には**体制整備**が不可欠であり、第２テーマは「種を育てるための体制」としています。シーズから実用化までの流れを再認識し、今後われわれが進むべき方向性を考える場となれば幸いです。

さらに今回は、2 つのシンポジウムの間にポスターセッションを設定しました。「種を育てる」にはそれぞれのステップに関与するみなさまの現実的な取り組みが不可欠です。今回は試みとして、「優秀演題賞」を設定します。全体を俯瞰するような演題はもちろん歓迎ですが、日常の業務に直結するような演題を含めてふるってご応募くださいますようお願い致します。

みなさまのお力を頂き、参加される方々にとってお互いの顔が見える中で有用な情報が得られる地方会とするべく準備を進めて参ります。有意義な地方会となりますようどうぞよろしくお願い致します。

詳細は順次、日本臨床薬理学会中国・四国地方支部のホームページに掲載頂きますのでご確認ください。http://jscpt-cs.jp/

第４回日本臨床薬理学会中国・四国地方会会長
楊河　宏章
（徳島大学病院臨床試験管理センター）

第４回日本臨床薬理学会中国・四国地方会
プログラム（第２版）

２０１９年7月6日（土）　13:00-17:30
徳島市（徳島大学蔵本キャンパス大塚講堂）
会費 3000 円（学生無料）

13:00　開会挨拶

13:05-14:00　特別講演
「ＡＬＳの治療薬医師主導（死亡）治験」
梶　龍児　（国立病院機構宇多野病院長、徳島大学特命教授）

14:00-14:10　休憩

14:10-15:10　シンポジウム１　「適正な臨床研究推進のために」
１）研究者とともに歩む～支援・管理経験からの提案～
近藤　智子　（山口大学医学部附属病院臨床研究センター）
２）研究倫理コンサルタントとその育成
中馬　真幸　（徳島大学病院臨床試験管理センター）
３）研究公正とその考え方
伊吹　友秀　（東京理科大学理工学部）

15:10-15:40　休息、一般演題ポスター発表

15:40-17:10　シンポジウム２　「種を育てるための体制」
１）シーズ開発に向けた四国 TLO の活動
矢野　慎一　（徳島大学研究支援・産官学連携センター）
２）鳥大発医療機器開発の挑戦 ～地域の企業とともに取り組む新しい医工連携
古賀　敦朗　（鳥取大学研究推進機構研究戦略室）
３）特色を生かした治験・臨床試験の実施-スケールメリットとボーダーレスな研究の取り組み
三邉　武彦　（昭和大学医学部薬理学講座臨床薬理学部門）
４）シーズ実用化のための研究支援実施体制～岡山大学病院の場合～
櫻井　淳　（岡山大学病院新医療研究開発センター）
５）指定発言・臨床薬理研究振興財団とその活動
金田　豊正　（公益財団法人臨床薬理研究振興財団）

17:10　優秀演題賞発表　表彰式
閉会挨拶　次期会長挨拶

17:30　終了